

情報処理センターに寄せて

情報処理センター運営委員会委員長 小堀 為雄

情報処理センターの利用者をはじめ関係機関の皆様には益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。このたび、平成元年4月1日をもちまして、金沢大学工学部長に就任いたしました。規定によって、金沢大学情報処理センター運営委員会委員長を務めさせて頂くことになりました。よろしくお願いたします。

さて、私と情報処理センターとのかかわりは、古く、金沢大学計算機室といていたころからあります。昭和36年に初めて金沢大学教官として着任した頃は、カシオのリレー計算機の頃で、私は、京都大学大型計算機、KDC-1を利用させて頂いていました。KDC-1はドラム方式で200語のクイックバンドがあり、プログラムはマシンコードによるテープ方式でした。その後、金沢大学理学部内の計算機室にNEAC 2230の自動プログラムの計算機が入り、当初は自動プログラムはおそい、どうも頼りないなどと、マシンコードで頑張っていたことを思い出します。利用者も少なく、「今日はまだ利用者が少ないから来てほしい」と連絡があり、それではと出かけたものです。暮れには、今年停年になられた堀尚一先生と忘年会を開いたこともありました。その後、昭和44年からニューヨークのコロンビア大学へ留学し、IBM360を使用し、テープからカード方式に私のプログラムが替わりました。帰国のころには理学部にあった計算機センターが、工学部に移っていました。そして、どうしたことか、昭和50年から4年間同センターのセンター長となり、昭和53年に情報処理センターとして、レンタル料500万円/月にグレードアップしました。その頃は全国の大型共同利用センター以外はほとんど計算機は買い取りであり、レンタル方式を文部省に認めてもらうのに多くの資料を作成し、説明やお願いによく出かけたことを覚えています。当時、工学部では建設工学科の新設を行っている時期で重要なことを2件同時に担当していました。私が45才の頃だと思います。今から考えると若さのいたりとも言うのでしょうか。赤面する次第です。

あれから10数年、今回は情報処理センターの運営委員長として、また、金沢大学総合情報処理センター設立実務委員会委員長として、センターの省令化に務めることになりました。これは前センター長の吉田博（元工学部教授）先生の悲願とも言うべき、事業であり、なんとしても平成2年度には実現したいと思っています。

何分、情報処理センターは全学の共同利用センターであり、特に、21世紀へ向けての高度情報化時代を迎えるに当たって、単なる計算機センターではなく、情報センターとしての役割に大きいものがあります。

また、平成3年度以後できるだけ早い時期に新キャンパスに新センターを建設して、飛躍的な発展をとげる計画であります。幸い青野茂行新学長は情報処理には非常にご造詣の深い先生でありますの

で私共の期待も大きいものがあります。

関連の皆様には、大いに当センターをご利用頂き、研究成果をあげて頂き、また、センター運営にご理解を頂ければ幸いです。就任にあたり一言、ご挨拶に変えさせていただきます。